高 取 町 の 教 育

平成２９年度全国学力・学習状況調査結果から見える高取町の子ども

１　調査の概要について

○　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○　実施日：平成２９年４月１８日（火）

○　調査対象とする児童生徒：小学校第６学年（５２名）、中学校第３学年（４２名）

○　調査事項及び手法

・　質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

・　教科に対する調査〔国語、算数・数学〕

それぞれ「主として『知識』に関する問題」を（A）、「主として『活用』に関する問題」を（B）として出題。

○　グラフの見方

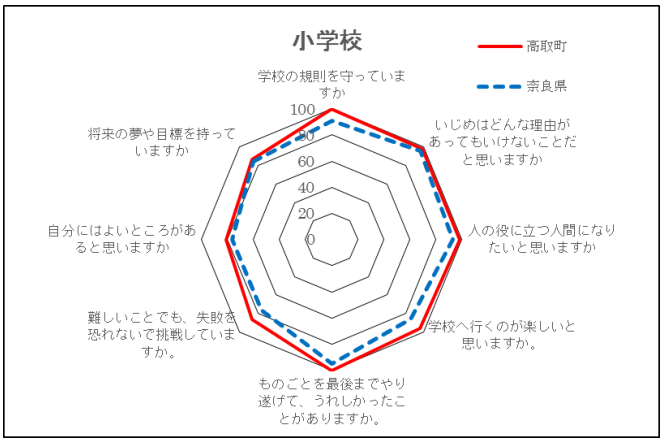
・　グラフの数値は素点（テストの点数）ではなく、正答率（最高１００％）です。

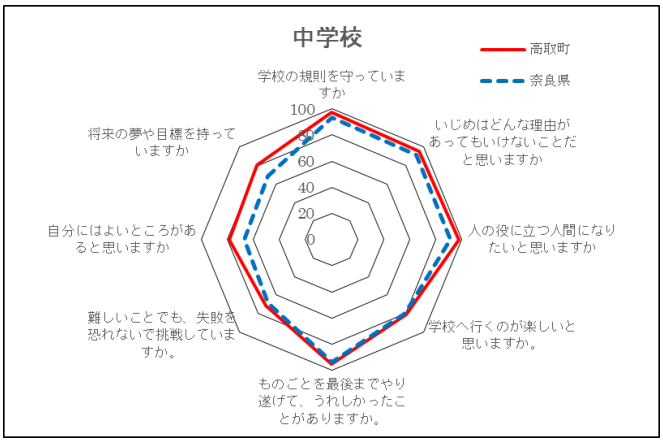
赤のグラフが青のグラフより大きい ⇒ 高取町の成績が県平均を上回っている。

赤のグラフが青のグラフより小さい ⇒ 高取町の成績が県平均を下回っている。

２　調査結果について

○　生活習慣や学習環境等に関する調査（抜粋）





本町の児童・生徒のすがた

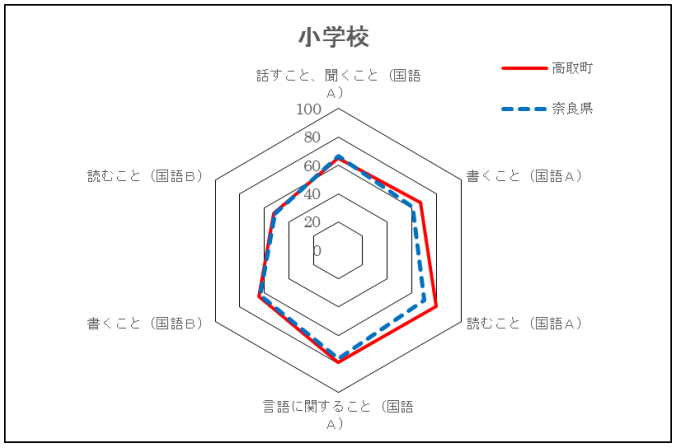
・　小学校は、すべての項目が県平均を上回り、学校生活を安心して楽しく過ごし、有意義な生活が送れていると考えられます。特に「学校の規則を守っていますか」と「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」は100パーセントです。学校生活が充実していると考えられます。

・　中学校は、すべての項目で県平均を上回っています。特に、「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の項目については、県平均を１０ポイント以上、上回っています。様々な生活体験から、自尊感情が芽生え、自己を見つめることができていると考えられます。そして、将来の自分を想像することができていると考えられます。

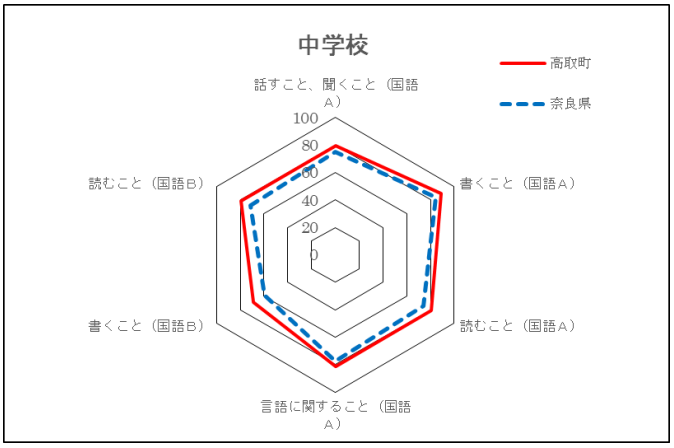
・　小中学校とも、「学校の規則を守っていますか」、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」という項目が高い傾向を示しています。このことから、「学校での学び」、「保護者の励まし」、「地域の見守り」が良好であり、学校の規則を大切にし自尊感情が育ち、前向きな学びの姿勢が結果として現れたものと考えられます。

○　学力に関する調査

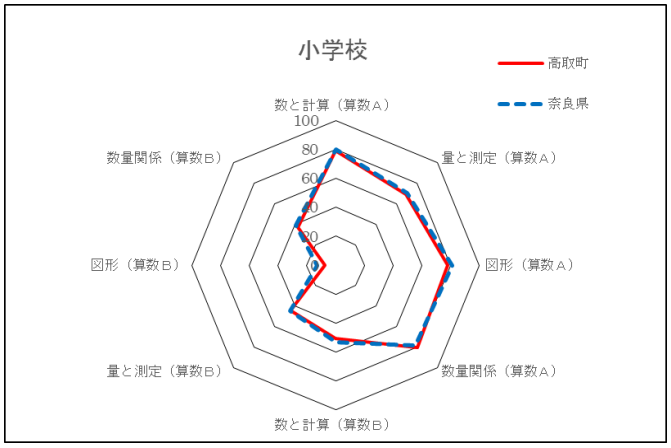
国　語



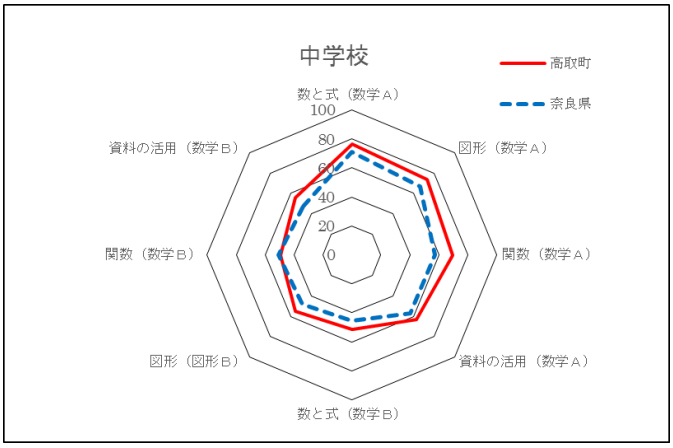
国　語



算　数



数　学



本町の児童・生徒のすがた

- 小学校の国語は、「読むこと」、「書くこと」の基礎的な技能については、県平均を上回っています。応用力においても県平均を上回っていますが課題も見られます。特に「話すこと」「聞くこと」が弱いと考えられます。
- 小学校の算数は、「数と計算」、「量と測定」等の基礎的な知識技能については県平均と同等または上回っている項目が多く見られます。図形（B）については、県平均も低く、根拠に基づいて答えを導く力を高めることが今後求められています。
- 中学校の国語は、すべての面で県平均を上回っています。その中で、「話すこと」「聞くこと」が、他の観点と比べて弱いと考えられます。
- 中学校の数学は、ほとんどの面で県平均を上回っています。しかし、日常的な事象を数学的に考える力が、若干弱い傾向にあります。
- 小中学校とも、応用力が弱いと考えられます。日常生活の中で応用力を生かした発展的な力をつけていく必要があると考えられます。

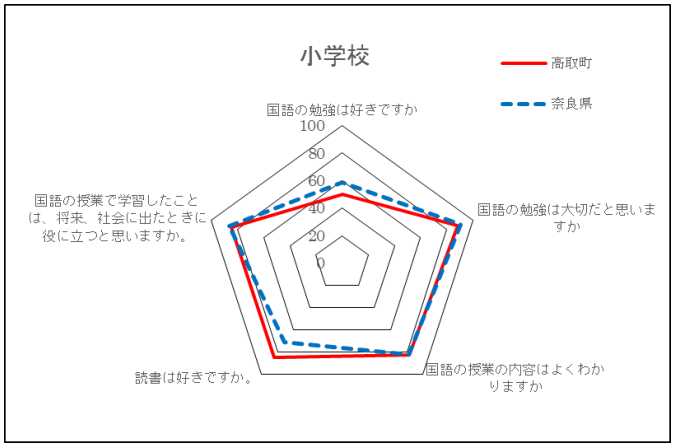
３　課題に対する改善方法

- 小学校は、基礎・基本的な知識技能の向上を図るため、「朝学習」を今後も継続します。また、たて割り班活動を今まで以上に充実させることにより人と関わる場面を増やし、その意義や楽しさを理解し、互いを認め合うことできる環境の中で学校生活が送れるように努めます。また、家庭学習を充実させるために保護者との連携を密にし、学習内容等の連絡を行い、学習習慣の確立を図ります。
- 小学校は、生活面すべての項目において県平均を上回っています。その中で、数値的な部分をみると「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の項目をさらに伸ばしていくため、学校生活の様々な活動を通じ、自分のいいところが見つけられるよう努めていきます。
- 中学校は、学習面では国語・数学ともに基礎的な知識があるものの、どのようにその知識をなかまに伝え、なかまの知識を取り入れて、その知識を深めていく力が弱いと考えられます。今後の教育で、「知識の理解の質を高め、資質・能力を育む」ために「主体的・対話的で深い学び」が求められています。そのためにも教職員も研修を積み、授業の創意工夫をし、「よりわかる授業」「より質を高める授業」を目指していきます。
- 中学校は、生活面ではすべての項目について相対的には県平均を上回っています。しかし、絶対的な数値に着眼すると「難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか」は、他の項目に比べて低い傾向にあります。学校生活の中で、基礎学力のさらなる充実を目指し、昨年同様、普段の会話や二者懇談から生徒たちの思いを教師が理解し、個々の目前の目標を教師と共に設定して、それをクリアし次の目標を設定していきます。それにより、生徒たちが新たな目標に向かっていく意欲を高める環境を目指していきます。
- 小中学校とも、基礎的な知識をなかまに対してどのように伝えていくかが課題であると考えられます。そのために、グループ活動を取り入れ、話し合い活動を深め、表現する力をつけていきます。

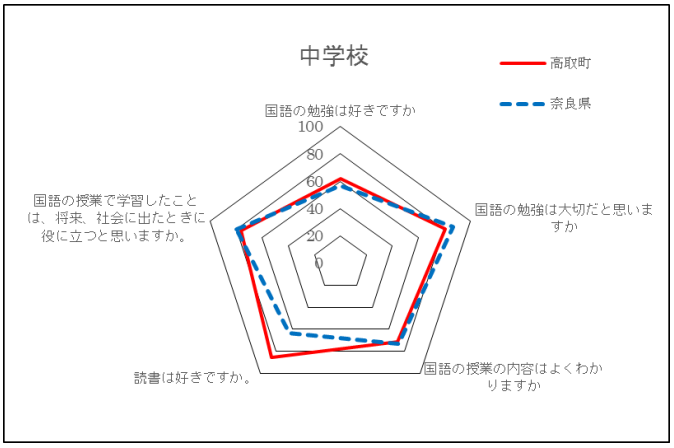
参考資料

○　学習状況に関する調査（抜粋）

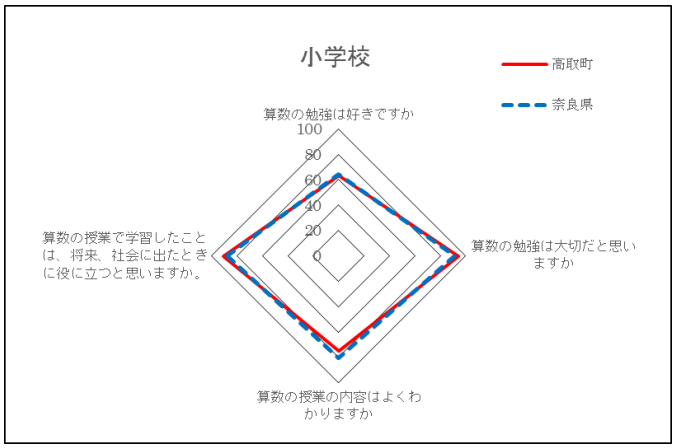
国　語



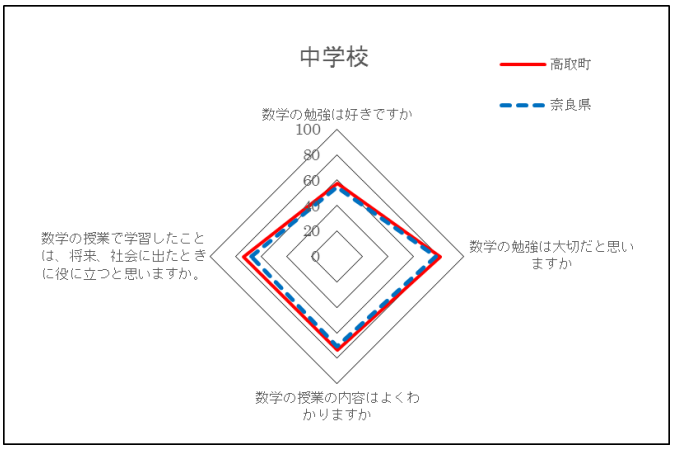
国　語



算　数



数　学



本町の児童・生徒のすがた

- 小学校は、「国語・算数は好きですか」の調査項目が、県平均に比べて低くなっています。児童に学習への興味や関心をもたせることが大切だと考えられます。
- 中学校は、落ち着いた環境で学習に取り組んでいます。基礎的な知識も概ね身についています。しかし、その知識を使ったり他の生徒の知識を使って、自分の考えを表現する力が県平均と比べて少し弱いと考えられます。